從比較閱讀的觀點看村上春樹的紀行文
－以〈讚岐・超深度烏龍麵紀行〉和〈徒步到神戶〉為文本－

賴錦雀

台灣　東吳大學日本語文學系　教授

摘要

一般說來，常被提及的閱讀指導包含理解單詞、片語、句子、段落、語義段落、文章形態、文章結構等由下而上的方式，以及掌握文章風格、特色和作者想傳達給讀者之資訊的由上而下的方式。除此之外，也有一種分析複數文本的形式和內容的比較閱讀指導方式。比較閱讀乃是閱讀複數文本並且考察其共同點及差異處。文章共同點和差異處，可從語言形式探討使用的詞彙、文章的結構、文體、內容來分析每個句子的評價以及內容的要點。本論文的目的，乃是以村上春樹的紀行文“讚岐・超深度烏龍麵紀行”和“徒步到神戶”為文本，考察其語言形式及內涵的異同。利用 AI 文本探勘的科技，除了可以分析可視化的語言形式之外，也可以將目視閱讀較難察覺之文章特性予以可視化。期待比較兩文本的語彙使用頻率及其重要性、語詞形態分析、二維圖，文本性質，情感表達等要素，可以提高閱讀指導的成效。

關鍵字：比較閱讀，村上春樹，紀行文，AI 文字探勘，資訊可視化

受理日期:2020 年 3 月 10 日

通過日期:2020 年 5 月 1 日

See Murakami Haruki 's Travel Journals from a Comparative Reading Perspective: In case of "Sanuki Cyo-deep Udon kiko" and "Kobe made aruku"

Lai, Jiin-Chiueh

Professor, Department of Japanese Language and Culture,

Soochow University, Taiwan

Abstract

Bottom-up and top-down methods are the most frequently used in reading guidance. In the bottom-up method, the words, phrases, sentences, paragraphs, meaning paragraphs, and the form and structure of a sentence are understood. The top-down method captures the style, characteristics, and information that the author intends to convey to the reader. Another method is comparative reading, which analyzes the format and content of multiple sentences. Comparative reading, in other words, reading multiple texts and focusing on their similarities and differences. The purpose of this paper is to analyze the similarities and differences in language form and content of Murakami Haruki's Travel Journals "Sanuki Cyo-deep Udon kiko" and "Kobe made aruku".Using AI text mining, in addition to analyzing the language form of visualization, you can also visualize the characteristics of articles that are difficult to detect by visual reading. I look forward to comparing the vocabulary usage frequency of two texts and their importance, vocabulary form, two-dimensional maps, textual nature, and emotional expression, which can improve the effectiveness of reading guidance.

Keywords : Comparative reading, Murakami Haruki, Travel Journal,
AI text mining, Data visualization.

比較読解の視点から見た村上春樹の紀行文
—「讃岐・超ディープうどん紀行」と「神戸まで歩く」の場合—

賴錦雀

台湾　東呉大学日本語文学科　教授

要旨

読解教育は一般的に言えば、一つの文章の語、句、文、段落、意味段落、文章の形態や構成を理解するボトムアップ方式と一つの文章の作風、特色と作者が読者に伝えようとする情報などをキャッチするトップダウン方式がよく取り上げられるが、それとは別に、複数の文章の形式や内容を分析する比較読解という指導法もある。比べ読み、比較読みともいう比較読解はつまり、複数の文章を読んで、それぞれの共通点や相違点を中心に考察することである。違った文章の共通点、相違点といえば、文章理解のための、言語形式から見る使用語彙、文章の構成、文体及び内容から見る各文の評価性、内容のポイントなど、いろいろ考えられる。本論文では、村上春樹の紀行文「讃岐・超ディープうどん紀行」と「神戸まで歩く」をテキストとして、その言語形式と内容の相違点を考察するのが目的である。AI テキストマイニングを利用した場合、可視できる言語形式を分析するほかに、目で読んでも気付きにくいテキストのデータを可視化することができる。両テキストの使用語彙の頻度数と重要度、形態素解析、二次元マップ、テキストの性質、感情表現などを比較することによって、読解指導の効果が上がることを庶幾する。

キーワード：比較読解、村上春樹、紀行文、AI テキストマイニング、データの可視化

比較読解の視点から見た村上春樹の紀行文
—「讃岐・超ディープうどん紀行」と「神戸まで歩く」の場合—

賴錦雀

台湾　東呉大学日本語文学科　教授

1.はじめに

科学の革新によって、ここ 3、40 年、事務機器においていろいろな変化が見られる。1980 年代はワープロ、ポケットベルの時代だったが、現在ではコンピューター、携帯電話が用いられるようになっている。そして、インターネットが普及して社会生活の多くの分野で AI を利用した様々なロボットや機器が出回っている。e ラーニングでビッグデータや AI 対応したプログラミング言語を習得した IT 人材は得意先や顧客の好みにカスタマイズしたサービスを提供したり、ホテル業界の従業員は利用者の情報を可視化したシステムを使って、利用者のニーズに合わせて喜ばれるサービスを提供して顧客満足度を高めたりした例がよく聞こえる。また、翻訳機器によって日本語会話に堪能でなくても日本で旅行したり生活したりすることができる。

日本語教育における読解指導でも現代の科学技術のツールを利用すれば、時間的にも作業的にもメリットがある。例えば、チュー太の道具箱を使ったら、テキストの使用語彙のレベルが分かる。そして、AI テキストマイニングを利用すれば、目で読んでも気付かないテキストのデータの可視化ができ、読解のプラスになる。このようなツールを使う際、ビッグデータを利用するコーパス言語学の基本知識が必要である。台湾では日本語コーパスを利用した日本語学、日本語教育の論述は 1990 年後半以降、少しずつ見られるようになった。2008 年に成功大学で構築された日本語学習者コーパスを使った研究成果も見られる。近年、日本・国立国語研究所で 2011 年に公

表された日本語書き言葉均衡コーパスや2016年に公開された12言語の母語の学習者の多言語母語の日本語学習者横断コーパス（I-JAS）を活かした研究論文が少なくないが、その多くはコーパスを例文引用の道具か共起表現のソースにしたもののように思われる。AIテキストマイニング利用の場合では、統計学的手法によってある文章や作品における単語の使用傾向、品詞別、品詞構成、語彙特徴、文章特徴など、目だけでは読解できないデータを数値か図形、2次元マップで表し[1]、文章の解析や他文章との比較も考えられる。

本論文では、比較読解教授法の概念で、村上春樹の紀行文「讃岐・超ディープうどん紀行」と「神戸まで歩く」を対象に、テキストマイニングのソフトを利用してそれぞれの使用単語の頻度数、形態素解析、使用語彙の重要度、二次元マップ、テキストの性質、感情表現などを比較してみたいものである。

2. 比較読解教授法

日本語教育における読解指導は学習者の読解力を高めるのが目的である。筆者の体験によれば、読解教育でよく取り上げられるのはボトムアップ方式とトップダウン方式である。前者は文章の語、句、文、段落、意味段落、文章の形態や構成を理解する基礎読解であるのに対して、後者は作風、特色、作者が読者に伝えようとする情報などをキャッチする分析読解である[2]。そのほかに、意見交換をする協働読解や朗読による応用読解、複数の文章の形式や内容を分析する比較読解などいろいろな種類がある。読解力を高めるには語彙量の増加、文法力の向上、文章の背後に潜められている文化理解の深化などが考えられるが、比較読解もその効果的な方法の一つだと思われる。

[1] 頼(2019b)を参照。
[2] 石黒(2012)では読解という活動が次の七段階に分けられている。(1)画像取得活動、(2)文字認識活動、(3)語句分節活動、(4)意味変換活動、(5)統語解析活動、(6)文脈構成活動、(7)状況想像活動。

単独の文章を読むと、確かに一つの文章に集中してその内容を把握することができる。しかし、関連の事項に気づくことが難しい。21 世紀における語学教育は新しいチャレンジに挑むための対応能力育成も重要なので、単独文章の読解だけではなく、複数文章を読みながらそれぞれの共通点や相違点に気づき、統合的学習法を学習者に教えることも教師の任務の一つである。比べ読み、比較読みともいう比較読解はつまり、複数の文章を読んでそれぞれの共通点や相違点を中心に考察することである[3]。違った文章の共通点、相違点といえば、文章理解のための、言語形式から見る使用語彙、文章の構成、文体、内容から見る各文の評価性、内容のポイントなどいろいろ考えられる。

比較読解教授法は文学の授業では作家論、作品論のために多く用いられるが、精読から多読へと展開することが考えられるので、中国語教育でも日本の国語教育でもその有効性が取り上げられている[4]。日本語教育では学習者の日本語学知識、文章鑑賞能力、文章分析能力、評価能力、書写能力、探求精神などの向上に繋がると思われるので、読解指導における応用を薦めたいものである。

3. 考察対象

比較読解教授法では形式か内容に類似性のある複数の文章を対象に分析し、その共通点と相違点を明らかにし、理解を深化する。本研究では村上春樹の紀行文「讃岐・超ディープうどん紀行」(以下「讃岐」とも)、「神戸まで歩く」(以下「神戸」とも)を対象として比較読みしながら二文章の相違点を明らかにしたい。

頼(2019)は『辺境·近境』における、活動範囲が山口県·からす島、四国·香川県と西宮－神戸間である日本国内紀行「無人島・からす島の秘密」、「讃岐・超ディープうどん紀行」、「神戸まで歩く」を

[3] 日本では 2008 年改訂の「新学習要領」では高学年の「読むこと」の内容として、本や文章を比べて読むなど効果的な読み方を工夫することが提示されている。詳しくは石丸(2009)を参照されたい。

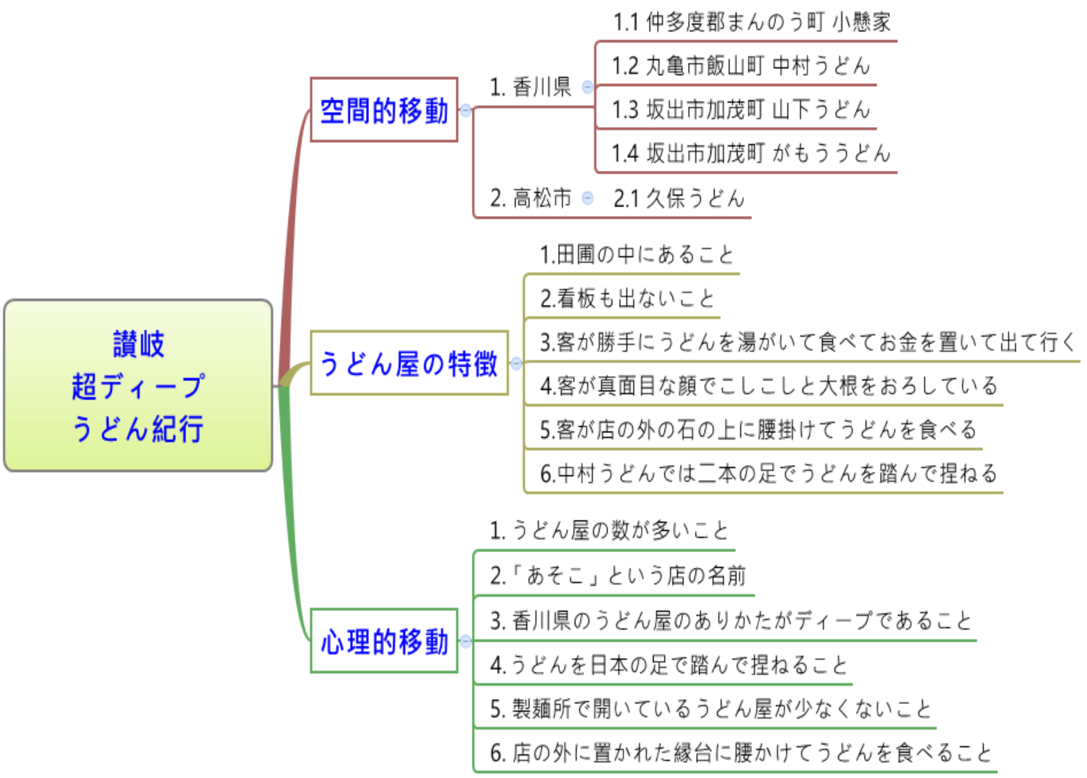
[4] 中国語教育については周(1998)、謝・何(2012)、日本の国語教育については石丸(2009)を参照されたい。

対象に考察した。本論文はその続編として、比較読みの視点から「讃岐・超ディープうどん紀行」、「神戸まで歩く」を例に読解活動の可能性を考えてみたい。

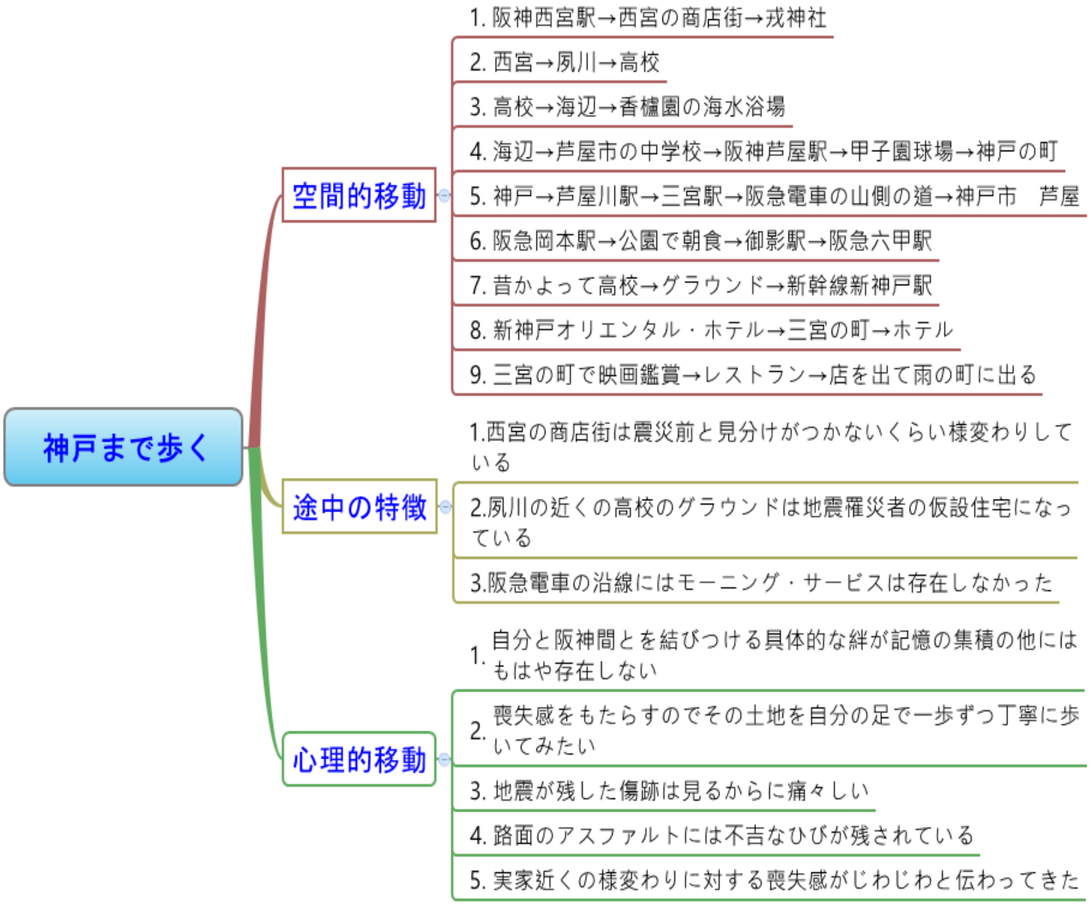
「讃岐・超ディープうどん紀行」、「神戸まで歩く」は村上春樹『辺境･近境』(1998。新潮文庫)に収録された日本国内の紀行文である。前者は 1990 年 10 月、村上春樹が編集者のマツオとイラスト画家の安西水丸と三人で四国で行ったうどんの取材旅行記であり、後者は村上春樹が阪神大震災のあと、1997 年 5 月に一人で西宮から神戸まで歩いた記録である。「讃岐・超ディープうどん」巡りは香川県のうどん屋のことが写実的に述べられていると思ったら、ゆっくり読むと、作者の心理的移動が見られる。うどん屋さんの数が圧倒的に多いこと、「あそこ」という店の名前、香川県のうどん屋のありかたはディープであること、うどんは二本の足で踏んで捏ねること、製麺所で開いているうどん屋が少なくないこと、店の外に置かれた縁台に腰掛けてうどんを食べることなどによって、作者はうどん観に「革命的転換があった」(『辺』p.158) と述べている。一方、「神戸まで歩く」は依頼文章ではなく、自主的に書かれた文章のためか、作者の心理的移動の箇所が多く観察される。故郷を離れて東京の大学に入り、結婚して仕事を持ち、それから阪神間には戻らなくなり、またいくつかの個人的な事情のために故郷に戻ることができないと感じ続ける村上春樹は阪神大震災の後、一人で西宮から神戸まで歩いた。自分と阪神間とを結びつける具体的な絆が、記憶の集積の他にはもはや存在しないのでそこを「故郷」と呼ぶことはもうできない、と考えた村上は「いくらかの喪失感をもたらす。」「だからこそ僕は、その土地を自分の足で一歩ずつ丁寧に歩いてみたいと思ったのかもしれない」と述べている[5]（図 1.2 を参照されたい)。

---

[5] 『辺境･近境』における村上春樹の空間的移動と心理的移動について詳しくは頼(2019a)を参照されたい。



（図 1）マインドマップによって見る「讃岐・超ディープうどん紀行」



（図 2）マインドマップによって見る「神戸まで歩く」

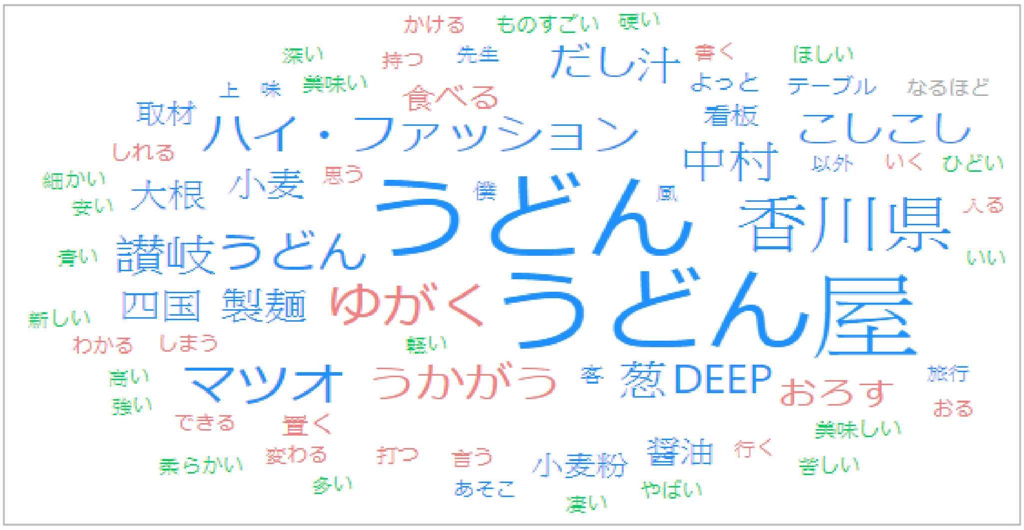
4. 量的考察

総文字数がそれぞれ 9,590、11,657[6]の「讃岐・超ディープうどん紀行」、「神戸まで歩く」を AI テキストマイニングを利用して考察すると次のように、量的分析によるワードクラウド、使用語彙の数と品詞性、使用語彙の重要度及び質的分析による語彙の共起表現、二次元マップ、使用語彙から見たテキストの性質、語彙の難易度、ポジネガ感情表現、喜怒哀楽の表現が分かる。

4.1 ワードクラウド

ワードクラウドは文章中で出現頻度が高い単語を複数選び出し、その頻度に応じた大きさで図示する手法である。UserLocalAI テキストマイニングでは名詞は青、動詞は赤、形容詞は緑、感動詞は灰色というようになっている。

使用語彙の頻度を考慮に入れて作られたワードクラウドを見て分かるように、「讃岐」では「うどん、うどん屋、香川県、ゆがく、マツオ、讃岐うどん」が大きく見られ、「神戸」では「建ち並ぶ、空き地、阪神間、歩く、僕、西宮」が大きく見られる[7]。大きく見られる語彙はつまり文章において使用頻度が高いものであるので、このワードクラウドによって、文章における使用語彙のボリュームが分かるわけである。

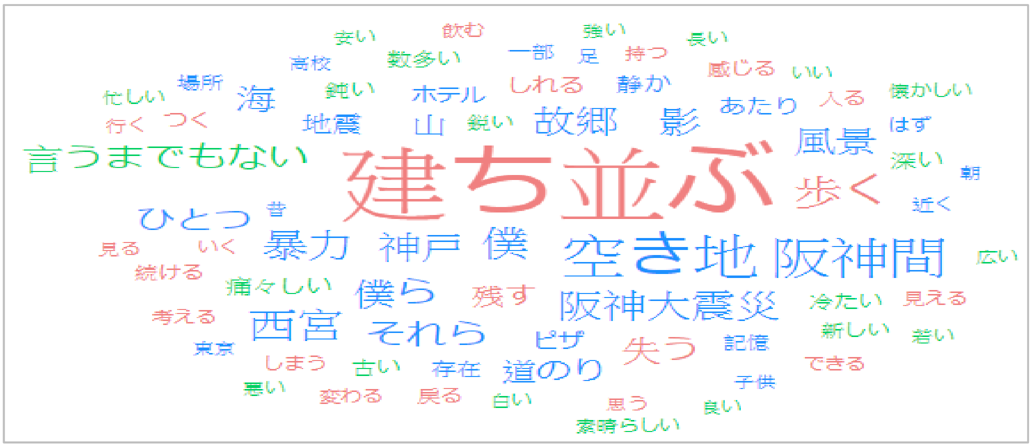


（図 3）「讃岐」のワードクラウド

---

6 UserLocalAI テキストマイニングの調査結果による。

7 同注 5。



(図 4)「神戸」のワードクラウド

4.2 形態素解析

4.2.1 使用語彙の数と品詞性

「讃岐」と「神戸」における語彙は表 1 のようである[8]。実質語で名詞、動詞が多く、形容詞、形容動詞が少ないのは両方同じである。そして、両方とも形容詞、形容動詞より副詞が多く用いられている。

(表 1)「讃岐」「神戸」における使用語彙の語数と品詞

		名詞	動詞	形容動詞	形容詞	連体詞	接続詞	副詞	感動詞	助動詞	助詞	接頭辞	接尾辞	合計
讃岐	異り語数	599	159	30	42	10	7	94	5	21	55	9	46	1077
	延べ語数	1430	865	38	121	44	23	201	7	499	1854	26	160	5268
神戸	異り語数	807	276	46	45	13	6	86	7	17	42	10	55	1410
	延べ語数	1824	950	82	132	85	32	212	9	693	2152	20	156	6347

4.2.2 使用語彙の重要度

「讃岐」の実質語[9]における頻度数 10 回以上の上位語は「うどん(111 回)、食べる(45 回)、うどん屋(43 回)、僕(28 回)、香川県(27 回)、店(25 回)、中村(20 回)、置く(15 回)、醤油(12 回)、小麦(11 回)」であるが、与えられた文書の中でその単語がどれだけ特徴的であるかを表している重要度[10]から見た場合、スコア 30 以上の上位語は「うどん、うどん屋、香川県、マツオ、讃岐うどん、

[8] 国立国語研究所 web 茶まめの検索結果を参照。
[9] 本論文で言う実質語とは形式意味しか持っていない補助動詞「ある、いる、なる、する」などを除いた、実際の意味を持つ語を指す。
[10] UserLocalAI テキストマイニングによる。

中村、ハイ・ファッション、葱」になる[11]。「マツオ」は「四国うどんの旅」を企画した「ハイファッション」という雑誌の編集者であるが、それを除いた語は全部、タイトルの「うどん」の関係語である。

一方、「神戸」の実質語における使用語彙頻度数 10 回以上の上位語は「僕（78 回)、歩く（22 回)、阪神（17 回)、神戸（16 回)、暴力（14 回)、海（13 回)、空き地（12 回)」であるが、重要度 10 以上の上位語は「空き地、建ち並ぶ、阪神間、僕、西宮、暴力、阪神大震災、切り崩す」になる。阪神大震災によって、家や建物が倒壊して空き地になり、もともと空き地だったところに仮住宅が建てられた。また山と海が接近した阪神間は山を崩して海辺を埋め、山が切り崩されたあとと埋め立てに住宅が建ち並んだ。「暴力」というのは地震のことだけではなく、阪神大震災二カ月後の地下鉄サリン事件、村上が神戸を歩いた数カ月後に起こった暴力団員による神戸の拳銃の乱射事件などのことでもある。何組かの家族連れが、村上がかつて父親と家で飼っていた猫を棄てた香櫨園[12]の海水浴場があったあたりでバーベキューをしているのを見て、「その平和な風景の中には、暴力の残響のようなものが否定しがたくある。(中略) その暴力性の一部は僕らの足下に潜んでいるし、べつの一部は僕ら自身の内側に潜んでいる。」(「神戸」 p.280) と村上は述べている。

5.質的考察

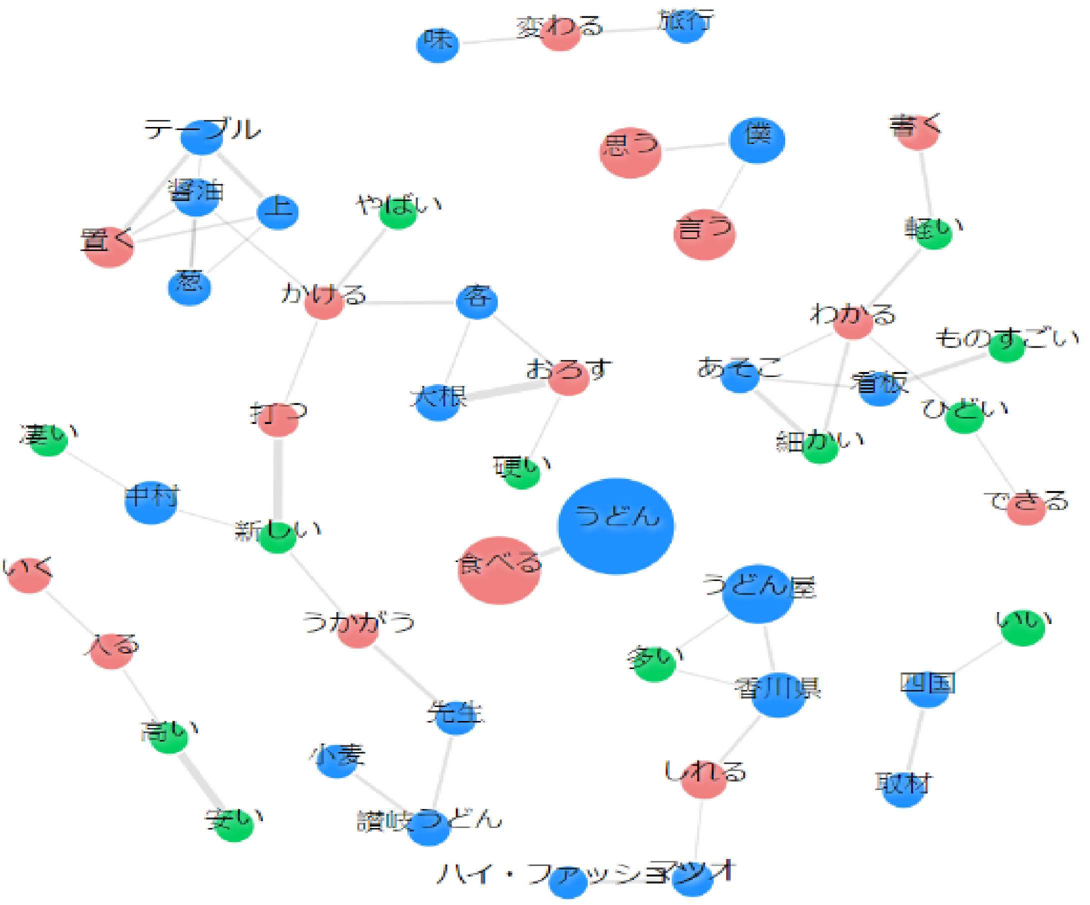
5.1 語彙的考察

5.1.1 語彙の共起ネットワーク

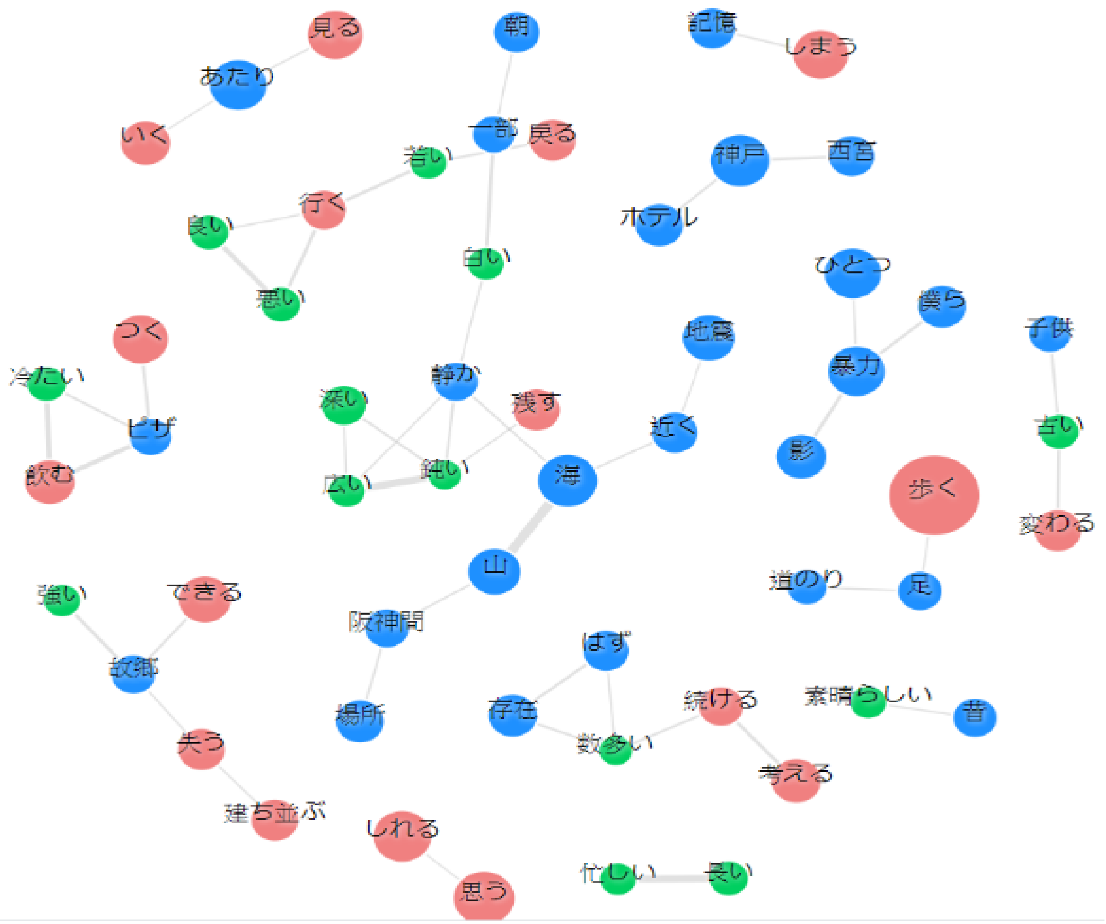
[11] 重要度は UserLocalAI テキストマイニングのスコア調査の結果による。AI テキストマイニングソフトウェアを使って分析した場合、文章中に出現する単語の頻出度と共に、単語ごとに「スコア」が表示されている。「スコア」の大きさは、与えられた文書の中でその単語がどれだけ特徴的であるかを表している。通常はその単語の出現回数が多いほどスコアが高くなるが、「言う」や「思う」など、どの文書にもよく現れる単語についてはスコアが低めになる。スコアはその単語の「重要度」を表す値である。

[12] 村上(2019)による。

図 5、図 6 は AI テキストマイニングで得た「讃岐」と「神戸」における語彙のネットワークである。使用回数で見ると、「讃岐」における共起回数が多い単語ペアは「うどん、食べる」（41 回）、「うどん、うどん」（15 回）、「うどん、僕」（13 回）、「うどん、言う」（13 回）、「うどん、しまう」（13 回）、「うどん、中村」（13 回）、「うどん、思う」（12 回）、「うどん、香川県」（12 回）、「うどん屋、香川県」（11 回）と、うどんがよく出る。そして、「神戸」における共起回数が多い単語ペアは「はず、空き地」（8 回）、「僕、僕」（7 回）、「山、海」（6 回）、「僕、思う」（6 回）、「空き地、空き地」（6 回）、「僕、想う」（6 回）、「僕、記憶」（5 回）、「僕、影」（5 回）、「僕、残念」（5 回）、「僕ら、暴力」（5 回）、「できる、僕」（5 回）、「僕、暴力」（5 回）、「一つ、暴力」（5 回）と、「僕」が多く用いられている。これらの語彙共起は上述した語彙の重要度と同じ傾向に見られる。



（図 5）「讃岐」における語彙の共起ネットワーク



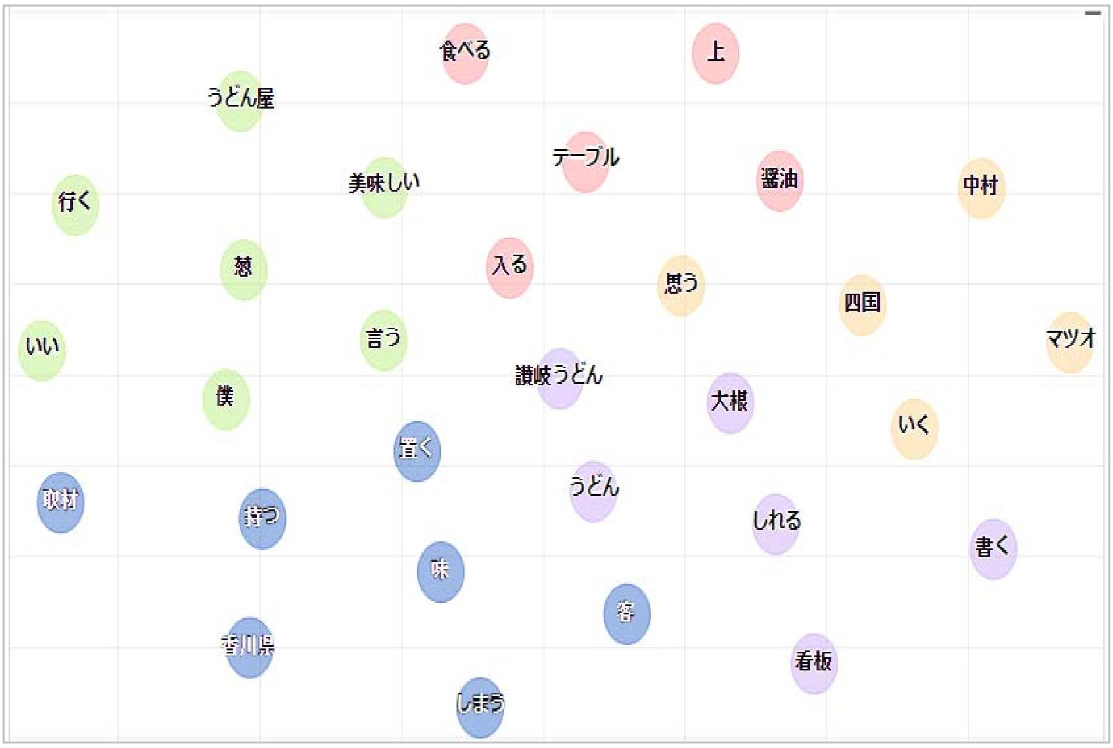
（図 6）「神戸」における語彙の共起ネットワーク

5.1.2 語彙の二次元マップ

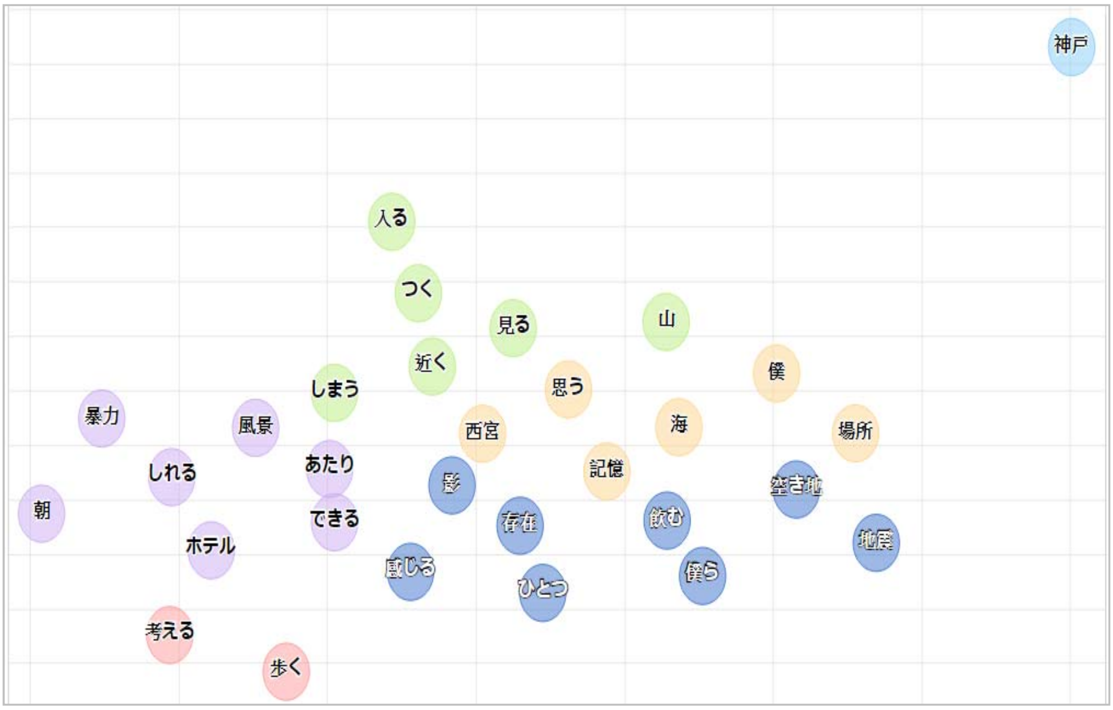
文章中での出現傾向が似た単語を近く、似ていない単語を遠く配置すると、次の図 7、図 8 のような二次元マップになる。「讃岐」の場合、「うどん屋、行く、いい、美味しい、言う、葱、僕」、「食べる、入る、テーブル、上、醤油」、「マツオ、中村、四国、いく、思う」、「香川県、取材、味、持つ、置く、しまう、客」、「うどん、讃岐うどん、大根、しれる[13]、看板、書く」はそれぞれ距離が近い単語なのでグループにまとめられている。一方、「神戸」の場合は、「朝、暴力、しれる、ホテル、風景、あたり、できる」、「しまう、入る、つく、近く、見る、山」「西宮、記憶、思う、海、僕、場所」、「感じる、影、存在、ひとつ、飲む、僕ら、空き地、地震」はそれぞれ同じグループにまとめられているが、全体の中心語である「神戸」は他の

[13] ここの「しれる」は「かもしれない」における「しれる」のことである。

グループから遠く離れている。但し、距離が近い単語を見やすくグルーピングするために色分けしている。同じ色の単語は近いグループに属していることを表す[14]。



（図 7）「讃岐」語彙の二次元マップ



（図 8）「神戸」語彙の二次元マップ

14 UserLocalAI テキストマイニングによる。

5.1.3 使用語彙から見たテキストの性質

表 2 を見て分かるように、「讃岐」「神戸」の使用語彙の傾向は全然違う。「讃岐」にだけ出る語とよく出る語はうどん関係の名詞 16 語と動詞 6 語、形容詞と形容動詞 9 語であるが、「神戸」にだけ出る語とよく出る語は僕と場所の関係語 15 語と動詞 27 語、形容詞と形容動詞 16 語である。比較してみれば、動詞より形容動詞、形容詞、連体詞、副詞などの修飾語が多く用いられている「讃岐」は説明的な性質が強い文章で、形容詞などの修飾語より動詞使用が多い「神戸」は動的な性質が強い文章である（表 3 参照）。但し、全体的に見た場合、相手へ迫る語りかけの第二人称代名詞使用と客観的なイメージを与える第三人称代名詞使用があまり見られないが、臨場感、躍動感が溢れる第一人称代名詞「僕」は「讃岐」では 28 回、「神戸」では 78 回用いられている[15]。また、「神戸」の独り言のような書き言葉中心の述べ方に比べて、「讃岐」は心情的描写の外に、会話文の記述もあるので、話し言葉の性質が見られる。特徴語をマップで表示すると図 9 のようになる。

（表 2）「讃岐」「神戸」における語彙の使用状況の比較

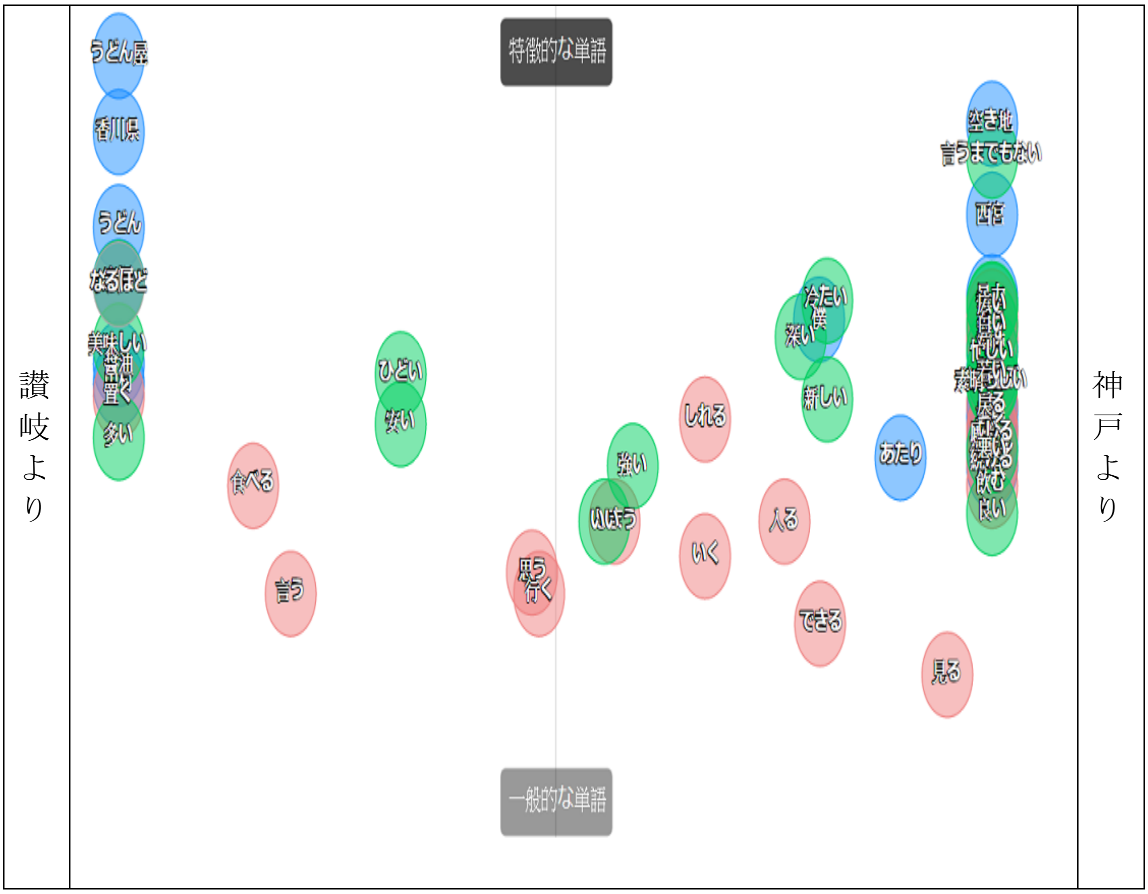
「讃岐」にだけ出る	「讃岐」によく出る	両方に出る	「神戸」によく出る	「神戸」にだけ出る
美味しい、うどん、なるほど、多い、美味い、うどん屋、置く、香川県、中村、凄い、高い、やばい、苦しい、おろす、醤油、うかがう、打つ、大根、四国、讃岐うどん、葱、味、テーブル、取材、看板、マツオ、小麦、DEEP、先生	食べる、言う、安い、ひどい	いい、思う、しまう、強い、行く、持つ	僕、新しい、深い、しれる、入る、冷たい、いく、できる、見る、懐かしい、変わる、考える、見える、とる、かかる、運ぶ、聞こえる、買う、読む、暮らす、話す、入れる、あたり、ひとつ、場所、僕ら、近く、朝、昔、記憶	歩く、良い、古い、長い、悪い、つく、飲む、感じる、広い、素晴らしい、白い、若い、忙しい、言うまでもない、戻る、建ち並ぶ、残す、失う、続ける、海、神戸、抜ける、乗る、空き地、暴力、山、地震、白っぽい、生々しい、暗い

15 語彙使用の傾向と文章の性質の相関については詳しくは田中(1973)、田中(1978)、石川(2012)を参照されたい。

(表 3)「讃岐」「神戸」における使用語彙の語数と品詞

			名詞	動詞	形容動詞	形容詞	連体詞	副詞	接続詞	感動詞	合計
讃岐	異り	語数	599	159	30	42	10	94	7	5	1077
		%	55.62	14.76	2.79	3.90	0.93	8.73	0.65	0.46	100
			55.62	14.76	16.35				1.11		100
	延べ	語数	1430	865	38	121	44	201	23	7	5268
		%	27.15	16.42	0.72	2.30	0.83	3.81	0.44	0.13	100
			27.15	16.42	7.66				0.57		100
神戸	異り	語数	807	276	46	45	13	86	6	7	1410
		%	57.23	19.57	3.26	3.19	0.92	6.10	0.42	0.50	100
			57.23	19.57	13.47				0.92		100
	延べ	語数	1824	950	82	132	85	212	32	9	6347
		%	28.74	14.97	1.29	2.08	1.34	3.34	0.54	0.14	100
			28.74	14.97	8.05				0.68		100
記号			N	V	Ad				I		

N：名詞、V：動詞、Ad：形容詞、形容動詞、連体詞、副詞、I：接続詞、感動詞。



(図 9)「讃岐」「神戸」の特徴語マップ

5.1.4 語彙の難易度

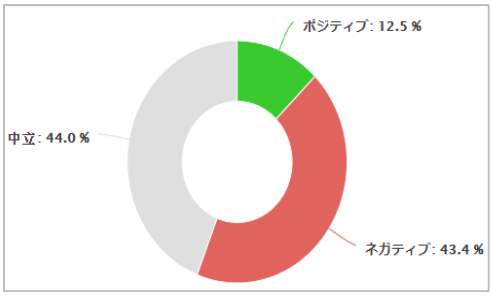
日本語能力検定試験の語彙別から見た場合、「讃岐」「神戸」の使用語彙は表 4 のように分類される[16]。両方とも四分の三はＮ4 語彙とＮ5 語彙であるので、日本語学習者にとっては難しい文章ではないと言える。

(表 4)「讃岐」「神戸」における使用語彙の難易度

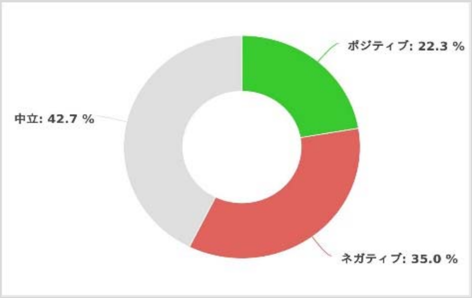
		級外	N1	N2N3	N4	N5	合計
讃岐	異なり語数	300	86	283	176	259	1104
	%	27.17	7.79	25.63	15.94	23.46	100
	延べ語数	529	119	625	515	3250	5038
	%	10.5	2.36	12.41	10.22	64.51	100
神戸	異なり語数	405	119	418	192	315	1449
	%	27.95	8.21	28.85	13.25	21.74	100
	延べ語数	594	174	808	634	3821	6031
	%	9.85	2.89	13.4	10.51	63.36	100

5.2 感情的考察

AI テキストマイニングで文書全体を分析し、その感情の傾向を可視化すると、「讃岐」も「神戸」もネガティブの感情表現がポジティブの感情表現より多い[17]。喜怒哀楽の表現で見てみると、「讃岐」は喜びの感情表現が一番多く、「神戸」は悲しみの感情表現が一番多い。



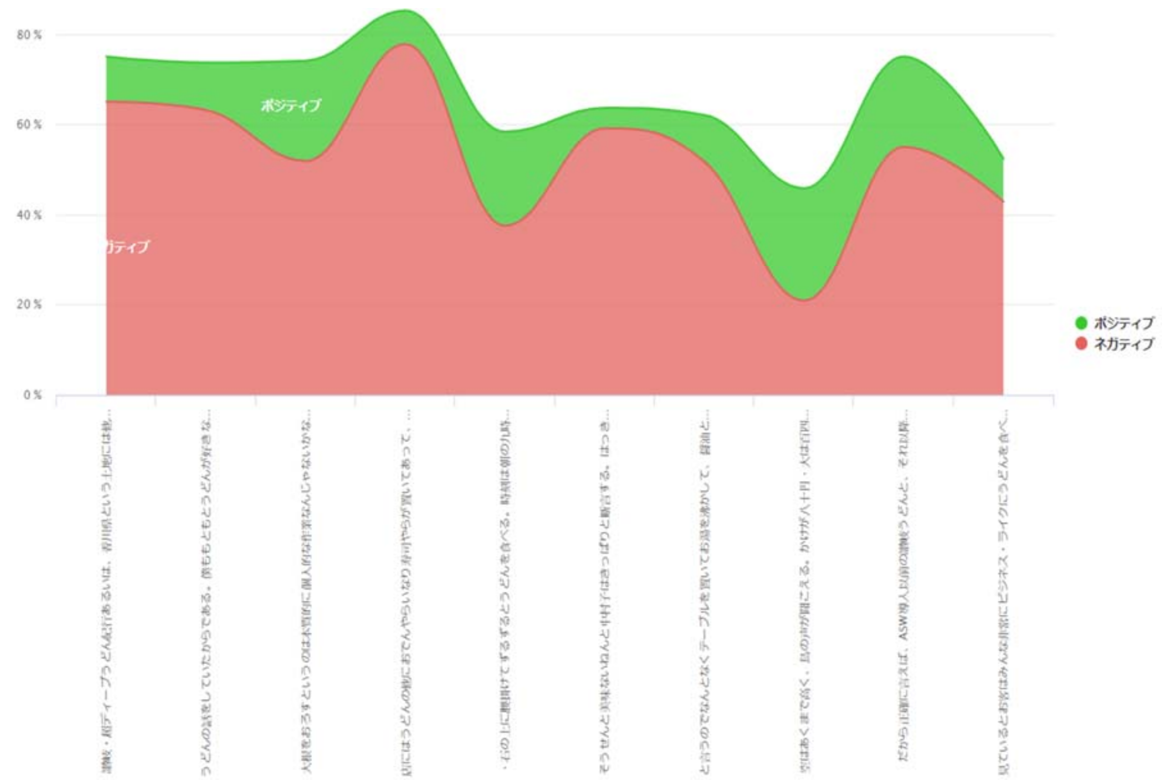
(図 10)「讃岐」のポジネガ感情



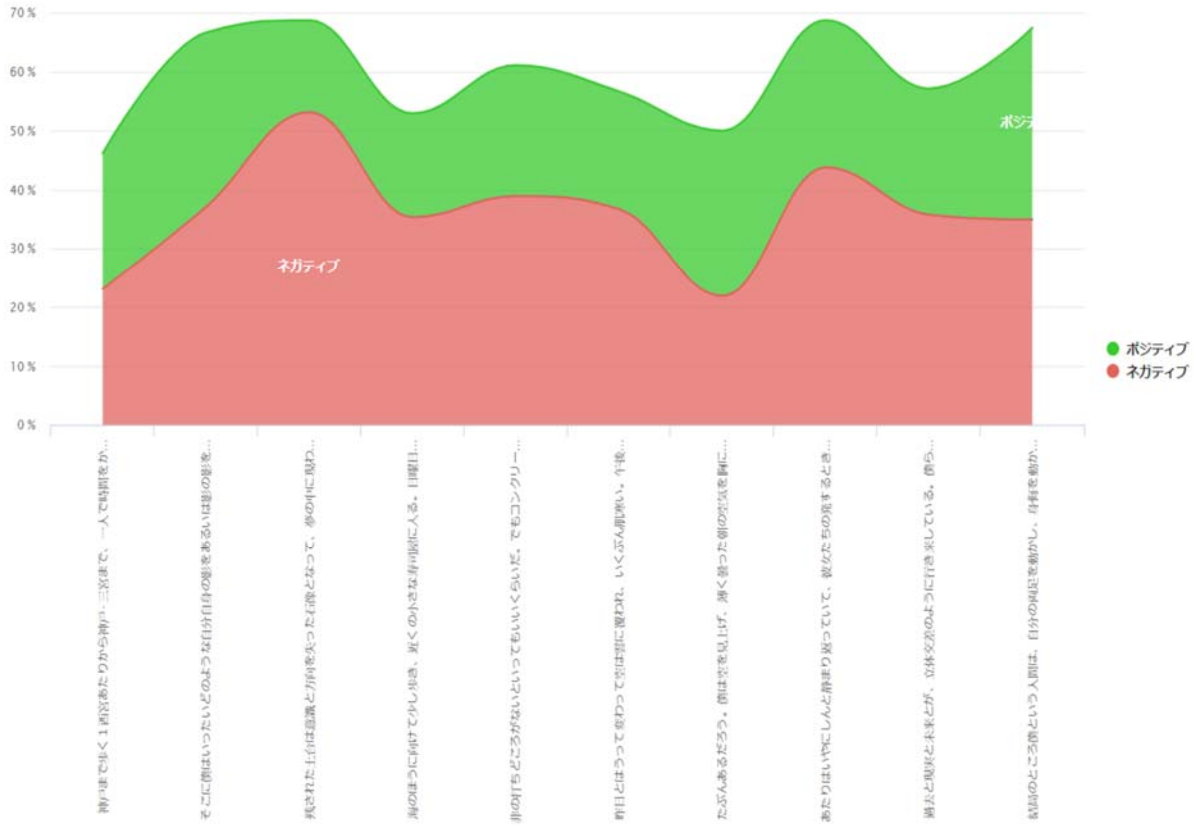
(図 11)「神戸」のポジネガ感情

[16] 表 4 はチュー太の道具箱で調査した結果を参考にまとめたものである。チュー太の道具箱は時には誤作動が見られる。例えば、「ヌーヴェルヴァーグ」を「ヌーヴェルヴゼグ」に誤認識した例も、「ベンツ」を「ベ」と「ンツ」に誤確認した例もある。しかし、全体的に言えば、量的考察にはその利用価値が認められる。

[17] User LocalAI テキストマイニングにおける「感情」は、文章に含まれる各感情の度合いを数値に換算されているものである。各感情の数値は全ての感情の平均値を 50%とした偏差値である。



（図 12）「讃岐」のポジネガ感情の推移



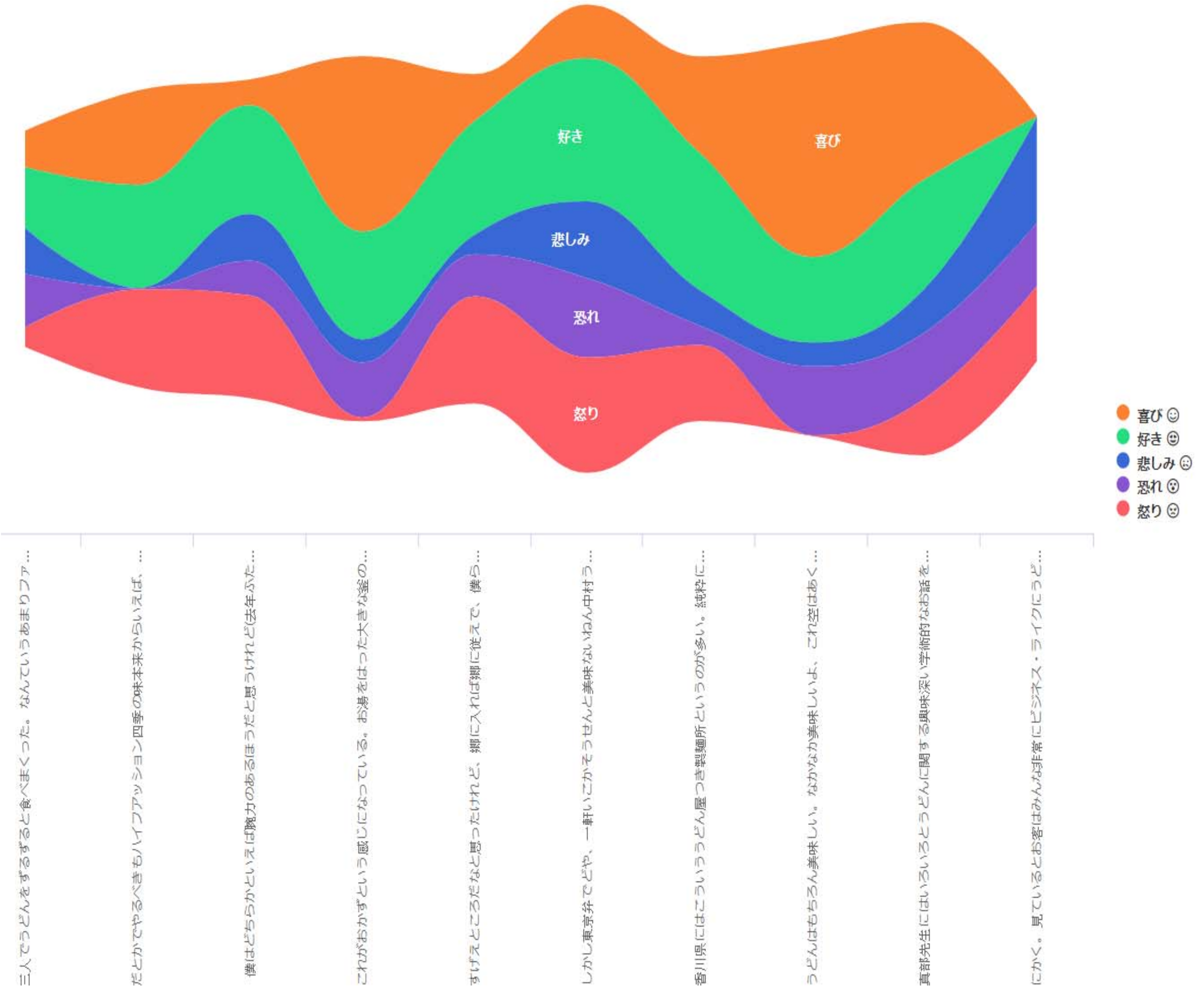
（図 13）「神戸」のポジネガ感情の推移

喜び	86.3%
好き	54.3%
怒り	39.5%
恐れ	29.9%
悲しみ	39.5%

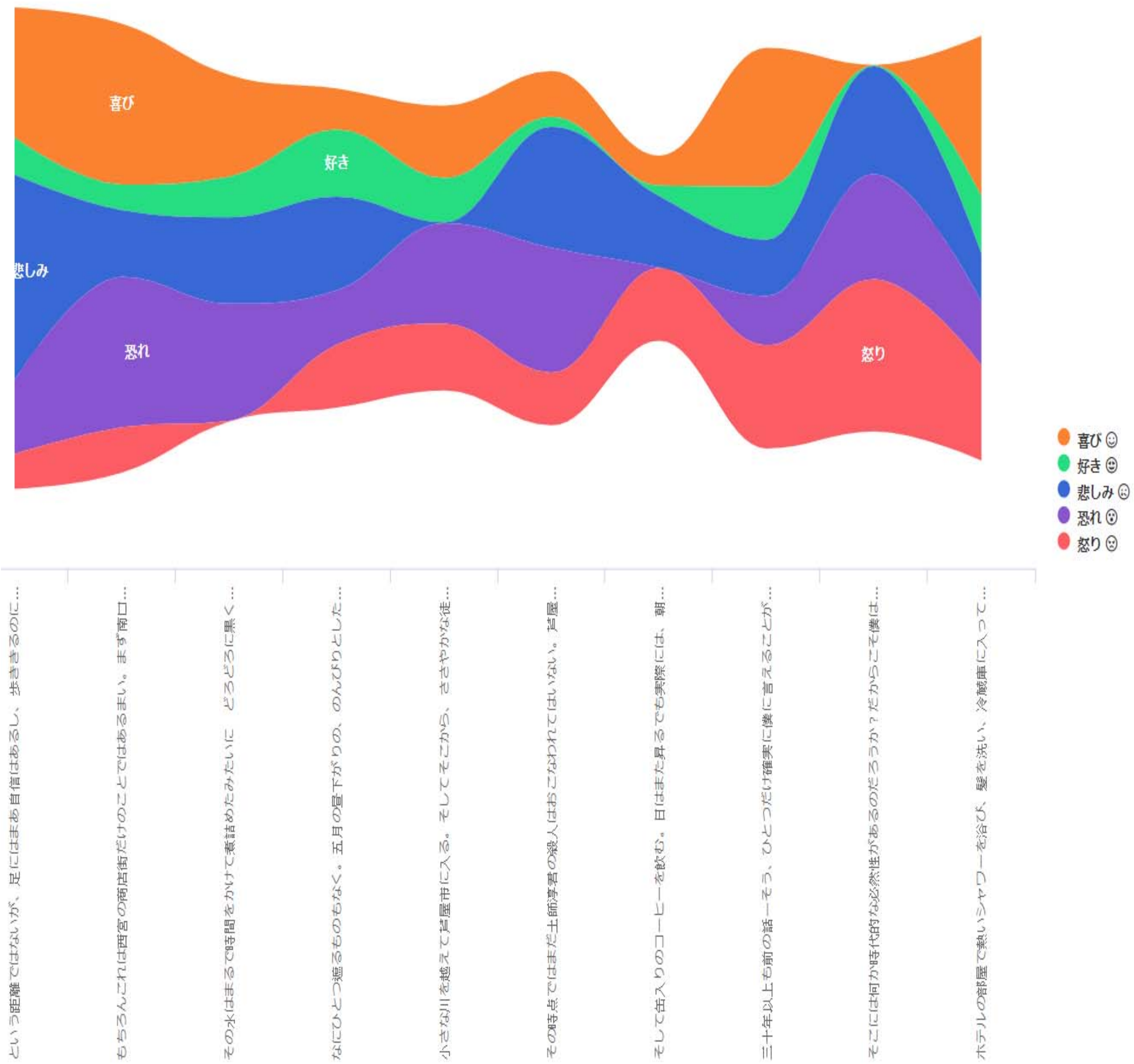
（図 14）「讃岐」における喜怒哀楽

喜び	55.0%
好き	15.0%
怒り	50.2%
恐れ	52.6%
悲しみ	77.3%

（図 15）「神戸」における喜怒哀楽



（図 16）「讃岐」の喜怒哀楽表現推移



（図 17）「神戸」の喜怒哀楽表現

但し、「讃岐」の最後の「香川県の人々がうどんについて話をするときには、まるで家族の一員について話しているときのような温もりがあった。誰もがうどんについての思い出を持っていて、それを懐かしそうに話してくれた。そういうのってなかなかいいものだし、またそういう温もりが美味みを生むのだと僕は思う。しかし「中村うどん」は凄かったよな。」を読んで分かるように、村上はポジティブの感情表示をしている。但し、テキストマイニングで提示された図形ではネガティブの感情がポジティブの感情より高い。このような結果については、よくテキストを吟味してゆっくり考察する必要がある。

6. おわりに

上述した考察結果をまとめてみると、「讃岐・超ディープうどん紀行」も「神戸まで歩く」も村上春樹による日本国内の紀行文である。表１で見たように、実質語で名詞、動詞が多く、形容詞、形容動詞が少ないのは両方同じであるし、形容詞、形容動詞より副詞が多く用いられているのも共通点である。そして、二つの紀行文とも四分の三はＮ4 語彙とＮ5 語彙であり、日本語学習者にとってそれほど難しい文章ではないと言える。但し、ワードクラウドや共起語彙のネットワーク、特徴語マップで分かるように、内容のポイントが違うので使用語彙、共起語彙、語彙間の関係もだいぶ異なっている。二つの作品とも相手へ迫る語りかけの第二人称代名詞使用と客観的なイメージを与える第三人称代名詞使用があまり見られないが、臨場感、躍動感が溢れる第一人称代名詞「僕」は「讃岐」では 28 回、「神戸」では 78 回用いられている。また、「神戸」の独り言のような書き言葉中心の述べ方に比べて、「讃岐」は心情的描写の外に、会話文の記述もあるので、話し言葉の性質が見られる。感情表現においては、「讃岐」も「神戸」もネガティブの感情表現がポジティブの感情表現より多いが、喜怒哀楽の表現で見てみると、「讃岐」は喜びの感情表現が一番多く、「神戸」は悲しみの感情表現が一番多い。このような同じ作家の紀行文鑑賞は、片方だけの紀行文鑑賞よりも比較読解による、複数の類質の紀行文鑑賞のほうがもっと文章を理解することができると思われる。

比較読解は性質の近い複数の文章を比較しながら吟味することによって、それぞれの要素や内容がもっと分かるようになり、文章理解のプラスになるので、日本語教育の読解指導法の一つとしてお薦めしたいものである。その際、テキストマイニングを利用した量的考察が選択肢の一つであるし、量的分析結果と質的分析結果の可視化図形も確かに読解活動にとってプラスになる。但し、テキストマイニングが提供してくれるサービスの多くは実技的なものであるが、日本語教育ではただ実技的なものだけが教育対象ではない。異文化

交流能力育成は語学教育の重要な目標である。スムーズに異文化交流できるように、日本語教育では言語形式による実技的訓練とともに、目標言語が使われる社会の文化、その社会の人々の価値観、感情などをも理解しなければならない。このような交流には頭と心が必要であるが、AI 利用の機器やロボットには理性も感情もない。また、ポジネガの感情表現の結果で見たように、AI テキストマイニングの可視化図形は参考になるものもあるが、正確に表しているとは言えない部分もあるように思われる。利用の際、どのように人文科学の素養を活かして科学技術を使いこなすか、要注意である。

テキスト

村上春樹（1998）「讃岐・超ディープうどん紀行」『辺境・近境』東京：新潮社、135-159 頁

村上春樹（1998）「神戸まで歩く」『辺境・近境』東京：新潮社、267-293 頁

村上春樹（2019）「猫を棄てる―父親について語るときに僕の語ること」『文藝春秋』第 97 巻第 6 号、東京：文藝春秋、240-267 頁

主要参考文献

石丸憲一（2009）「文学的文章の読みの授業における複数教材化の有効性の検証」『創価大学教育学論集』第60号、東京：創価大学、37-47頁

石川慎一郎（2012）『ベーシック　コーパス言語学』東京：ひつじ書房

石黒圭（2012）「読解とその教え方を考える」『日本語教育紀要』第 9 号、バンコク：国際交流基金バンコク日本文化センター

謝惠雯·何淑蘋（2012）「從 PISA 閱讀歷程談比較閱讀教學策略—以「紙船印象」、「背影」為例」、台北：第一屆語文教育暨第七屆辭章章法學學術研討會

周漢光（1998）「比較教學法在中文教學上的應用」『教育研究學報』13-2、香港：香港教師會、275-291 頁 http://www.hkta1934.org.hk/NewHorizon/abstract/2001m/page46.pdf（2019 年 9 月 15 日閲覧）

田中章夫（1973）「自動抄録処理におけるキー・ワードの性格」『電子計算機による国語研究』5 東京：国立国語研究所、141-184 頁

田中章夫（1978）「語彙の量的構成」『国語語彙論』東京：明治書院 162-181頁

平井千津子・松木孝幸・新井哲男（2015a）「統計処理の文学への応用－ヘミングウェイの場合」『東京家政大学研究紀要』第55集(2)、東京：東京家政大学、39－47頁

賴錦雀（2019a）「『辺境・近境』から見る村上春樹の移動―日本国内の紀行文を中心に」『台灣日本語文學報』第 46 號、台北：台灣日本語文學會、141-163 頁

賴錦雀（2019b）「日本語読解の量的指導と質的指導の統合」2019 年日語教學國際會議暨第七次東亞日本語文學論壇國際研討會、台北：東呉大学

リーディングチュウ太　http://language.tiu.ac.jp/tools.html

UserLocal AI テキストマイニン https://textmining.userlocal.jp

web 茶まめ　http://chamame.ninjal.ac.jp/

後記：本論文は 2019 年 11 月 30 日に台湾日本語教育学会主催・淡江大学共催「2019 年日本語教育国際シンポジウム」にての口頭発表原稿を修正したものである。二名の匿名査読者から有意義なご意見をいただいたが、深謝申し上げたい。